

シラカンバ防風林における ゴマダラカミキリによる穿孔被害

林業試験場 森林環境部 環境グループ 真坂一彦

最近立枯れが目立つ美唄の白樺防風林

道央圏の美唄には、耕地を強風から守るための防風林が整備されています。しかし最近、シラカンバ防風林で立枯れが目立つようになりました。枯れた木の根元付近をみると、ゴマダラカミキリ成虫による無数の脱出孔が認められます。シラカンバはゴマダラカミキリによって枯死したのでしょうか？まずは実態を把握する必要があります。



ゴマダラカミキリとは？

【生態】
通常1年1世代。体長は24～35mm。6月～7月に羽化，10月までみられる。
産卵部位は樹幹下部，特に地際に多い。
孔道の長さは40cm～1m。

【被害報告】

ポプラ類・ヤナギ類・ハンノキ類・カエデ類
・エゴノキ・スズカケノキ・モクマオウ・モリシマアカシア・柑橘類・バラ科の果樹・スギ・シラカンバ(厚沢部町で報告有り)。
『森林昆虫 総論・各論』(養賢堂, 1994)などを参照



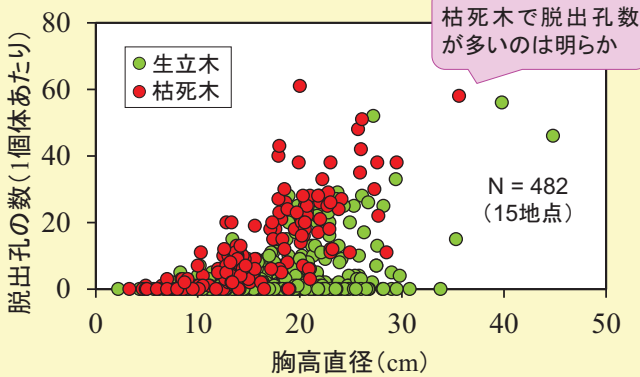
被害が観られるのは限定的



衰退防風林の分布



脱出孔の数: 生立木 vs. 枯死木



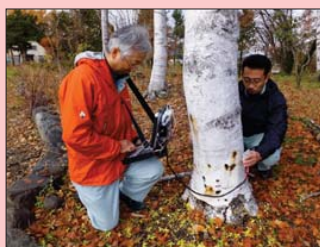
根元が腐れて倒れる？



農地や道路への倒伏の危険性あり



今後の展開



- ◆共振測定装置(左写真)を用いて腐朽状況を確認します。
- ◆穿孔被害の追跡調査を行います。
- ◆防風林は重要な景観資源でもあります。美唄市・空知総合振興局と連携して今後の取扱いを考えます。